

入居者インタビュー

「99%満足の毎日」・・・関根直栄様(81歳)

～「大筋の安心」があれば、楽しみの人生が開ける～

〈身をもって安心を体験〉

施設の検討を始めたのは、50歳代後半、現役の時からです。子供がいなかったから早くから関心を持っていました。68歳でシニア住宅を選択し入居しました。しかし入居してみると、介護が必要になった時のサービスが全く整っておらず、不安を覚えて退去。佐倉〈ゆうゆうの里〉のことは何度も訪ねて、質問をぶつけて、終の棲家としての必要条件を吟味し、納得した上で入居を決めました。

入居して早々、夜間に救急車騒ぎになり、緊急入院。あの時のことは今でもよく覚えています。本当にスタッフの方々には大感謝！

(女房の存在より大助かりでした(笑))。入居の選択は間違いなかった、と思っています。



『80歳でもちつき』ってスゴイでしょ!?
昨年もおいしいお餅ができました。

〈パソコンと写真は、私のコミュニケーションツール〉



どこへ行くときも相棒(カメラ)とはいつも一緒。これぞと思ったその時には「バシャッ」とシャッターを切ります。

私の趣味はパソコンとデジカメ写真。パソコンは69歳ごろから独学で覚え、さらにデジカメも始め、すっかり両方ともめり込んでいます。今では入居者間から『写真屋』とも呼ばれています(笑)。『桜を撮ってほしい』と、よく頼まれますので、撮影⇒パソコンからプリント⇒差し上げる、を繰り返しています。僕は、自分も楽しいし、皆さんに喜んでもらえることが、とても嬉しい。また、写真を通じて、女房の友達も広がっています。

先日は、ゆうゆうの里のブログに掲載したカルガモの写真が記者の目にとまり、女性自身(6月19日号)の中の「なごみスポット」ページに掲載されました。突然のことで驚きましたけど。僕は、結構、毎日忙しくしています。プールに入ったり、行事に参加したりと好きな事をしているだけなんだけど、写真データを加工したりして遊んでいると、あっという間に時間が過ぎてしまうんです。

〈1%の不満はね・・・〉

99%満足とのお話を聞くと、1%の不満は何でしょう？と気になり、お聞きしました。

「将来、女房が一人になってしまった時のことも実は心配。でも、他の入居者から『里のスタッフが、(ご主人が亡くなった後のいろいろな)事務手続きを手伝ってくれて助かった』という話もよく聞いているので、〈ゆうゆうの里〉にいる以上は、自分が先に死んで女房が残されても大丈夫、と安心した気持ちでいられます。でも僕の言う1%は当たり前のこと、誰にでもあることなんです。人間暮らしていれば、心配や問題は常にあるもの。でも前述のような「大筋の安心」があれば楽しみの人生が開けると僕は信じている。だから、僕は99%の満足で十分だと思っています。」



写真のように、笑顔が印象的な関根様。カメラを構えた関根様は、光線の具合やアングルを即座に計算しながら「カシャッ!!」。加工した写真も・・・見事な出来でした。さすが写真屋さん！